

検証

特集 ランキングと数字で見る 関連企画

1年

市指定ごみ袋の販売額の半額から

半額にした前と後でのごみ量

全体では7%の減量



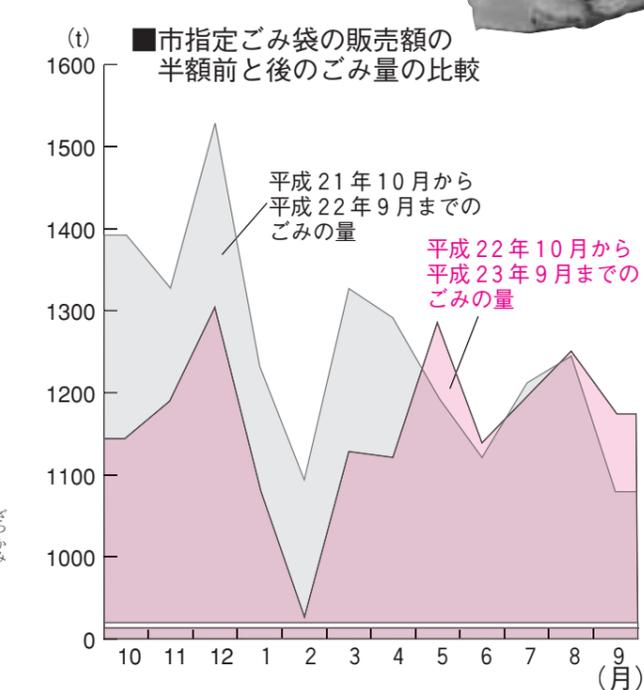
昨 年10月1日に、市指定ごみ袋の販売額を半額にしてから1年が経過。半額前の1年間と、この1年間のごみ量を比べてみました。

ごみ量全体では、約1万5049トンが約1万3958トンで約7%の減量。また、

ごみ量全体に対する資源ごみの割合は、10・47%が11・05%になり、資源ごみの量が増えていることが分かります。

月別で比較すると下のグラフのとおり、半額になっ

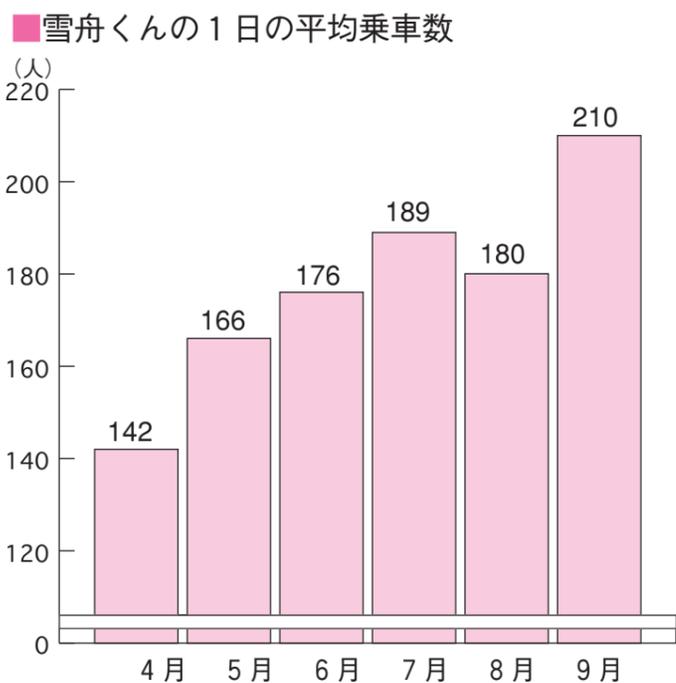
た当初から今年4月分までは減量が確実に進んでいました。しかし、5月以降は7月分を除き前年比で数%程度増えています。グラフにはありませんが、10月分も5%程度増えている状況です。



ごみ量と雪舟くんの利用 どうなっている？

市指定ごみ袋の販売額が半額になって1年、雪舟くんを運行して半年が過ぎました。それぞれの状況を数字で紹介し、これからを考えます。

9月には1日平均210人が利用 買い物や通院で活況



「雪舟くん」の利用促進と集客数の増加の相乗効果を図ろうと10月19日、吉備信用金庫とサントピア岡山総社と市は、「総社市新生活交通「雪舟くん」相互支援に関する協定」を市役所で締結した(写真右)。両事業所とも、待合所を設置(写真左の上が吉備信用金庫、同下がサントピア岡山総社)。さらに、吉備信用金庫は本店を含む市内6店舗で、来客者からの依頼があれば利用予約を代行する。サントピア岡山総社は、雪舟くんでの来客者に、ランチ100円引きや喫茶50円引き、日帰り入浴100円引きを行う。



半年

雪舟くんの運行開始から

希 望する場所から場所へ送迎する予約型で

乗合方式の公共の乗り物「雪舟くん」が今年4月から本格運行を開始して9月末で半年が過ぎました。

利用登録者数は9月末で、市民5人に1人の割合の1万2695人。1日平均の利用者数は、4月が142人で、以後ほぼ右肩上がり、9月には200人を超え210人になりました。延べの利用者数は、2万1909人。

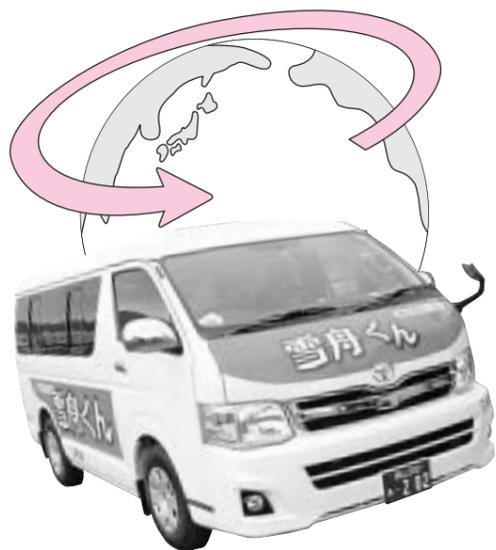
利用目的の上位は、買い物や医療機関への通院。移動手段としてだけでなく、経済の活性化や健康づくり

にもつながる公共の乗り物だと考えます。

また、待合所の設置や商品の割引などで、雪舟くんの運行を支援してくれる事業所もあります。

市では、1日平均250人の利用を目指しています。より利用しやすい雪舟くんにするため、来年4月に向けて運行の見直しをします。また、予約電話のつながりにくさの解消のため、受付端末を1つ増設し、5回線にします。

問い合わせ 人権・まちづくり課安全安心係(☎8249)



雪舟くんは半年で、運行している9台の車の総走行距離が、地球3周分もした距離になった